

第73回スガウエザリング学術講演会

日 程：令和4年11月25日（金）

開 催：ライブ配信※

参加登録制

聴講無料

テキスト代 5,000円(消費税込) PDF：印刷不可

定員 500名

後 援： 文部科学省

協 賛： （一社）軽金属製品協会（公社）高分子学会 （一社）色材協会
（公社）自動車技術会 ステンレス協会（一社）繊維学会
（一財）日本ウエザリングテストセンター（一社）日本鋼構造協会
（一社）日本ゴム協会（一社）日本塗料工業会 日本プラスチック工業連盟
（一社）表面技術協会（公社）腐食防食学会 スガ試験機(株)

主 催： 公益財団法人 スガウエザリング技術振興財団

※

～参加者の皆様へ重要なお願い～

本講演会は参加登録した本人のみが参加できるものであり、参加者限定の情報（ログインID・パスワード・講演動画閲覧URL等）を第三者に伝えないようお願いいたします。
また、講演動画の画面録画・録音・コピー等は禁止いたします。

■ プログラム

テーマ ウェザリング研究の成果発表と最新情報

プログラム	開催	ライブ配信	
	日程	令和4年11月25日(金)	
10:00	開会	司会 丸子ようこ	
10:00～10:05	開会のご挨拶	理事長 須賀茂雄	
[1] 10:10～10:40 (発表 30分)	低温下で生じるゴムのオゾン劣化メカニズム (第40回スガウェザリング財団賞表彰 科学技術功労賞受賞) 一般財団法人化学物質評価研究機構 高分子技術部 技術第三課 副長 岩瀬由佳		
[2] 10:45～11:15 (発表 30分)	圧電素子を用いた動的・静的センサによる雪崩と落石の計測 (第40回スガウェザリング財団賞表彰 技術功労賞受賞) 秋田県立大学 システム科学技術学部 同大学院研究科 教授 下井信浩		
[3] 11:20～11:40 (発表 20分)	ペロブスカイト素子の光電変換素子の用途展開と熱及び放射線耐久性評価の取組 (第38回研究助成 研究成果発表) 桐蔭横浜大学 医用工学部 教授 池上和志		
[4] 11:40～12:00 (発表 20分)	有機系太陽電池の耐久性評価技術の開発 (第38回研究助成 研究成果発表) 地方独立行政法人神奈川県立産業技術総合研究所 川崎技術支援部 統括専門研究員 齋藤英純		
	(昼休憩)		
[5] 13:00～13:35 (発表 30分・質問 5分)	次期改正 ISO 9227 の技術的変更点 スガ試験機株式会社 開発部 プロジェクトD 課長代理 兼 標準化室 長谷川和哉		
[6] 13:40～14:35 (発表 50分・質問 5分)	自動車用外装塗装の耐候性 (特別講演) トヨタ自動車株式会社 モビリティ材料技術部 樹脂・塗装設計室 主任 月森隆雄		
14:35	閉会	司会 丸子ようこ	

[1]～[4]は録画配信、[5]、[6]はライブ配信

■講演概要

<p>[1] 岩瀬由佳 ゴムのオゾン劣化は典型的な化学反応であるため、低温下では一般的にオゾンクラックの発生は抑制される。しかし、オゾン劣化防止剤が配合されたゴムの場合、高温下で高い耐オゾン性が確認されたゴムであっても、低温下でオゾンクラックが発生するケースがある。低温下で特異的に生じるゴムのオゾン劣化現象、及びオゾン劣化メカニズムについて調査した結果を報告する。</p>
<p>[2] 下井信浩 気象条件によっては、急斜面に積層した雪や土砂が原因で雪崩や落石を発生させることがある。このような雪崩や落石は、対策として設置された防雪柵に到達する。このフェンスが崩壊した場合は、交通が完全に遮断される。そのため、雪崩や落石の発生予測は重要であるが、その計測は難しいとされている。本講演では、この問題を解決するため、雪崩や落石による防雪フェンスの破壊リスクを計測することで、危険度予測を評価する手法について提案する。</p>
<p>[3] 池上和志 ヨウ化鉛系ペロブスカイト化合物は、フレキシブル基板へ印刷方式で作製する高効率太陽電池への応用が注目されている。一方、これらの化合物の放射線に対する高い耐久性も明らかとなり、X線センサーならびに宇宙利用に関する研究も進んでいる。ペロブスカイト光電変換素子の研究背景から、応用に向けた課題について紹介する。</p>
<p>[4] 斎藤英純 近年、小型IT機器の電源として有機太陽電池が注目されている。有機太陽電池は低照度でも発電能力が低下しにくく、塗布工程で製造されるため小面積でもモジュール化が容易といった特徴がある反面、シリコン太陽電池に比べて電圧変化時の電流応答が遅いタイプが多い。本研究では、それぞれのデバイスの遅れに対応し、定常値を自動判別するアルゴリズムを組み込んだ評価プログラムを開発し、耐久性評価への展開も含めた検討をおこなった。</p>
<p>[5] 長谷川和哉 現在改正作業が進められているISO 9227（塩水噴霧試験）第5版について、現行の第4版から改正される技術変更点を中心に解説する。塩水噴霧試験は腐食促進試験の基本として、ISO以外にもIECやASTM、JISなどの規格にもわずかな差はあるが採用されている試験方法である。塩水噴霧試験の代表的な規格であるISO 9227の改正は、他の規格においても重要である。</p>
<p>[6] 月森隆雄 自動車用外装塗膜は自然環境下において、熱、水、紫外線の複合した環境にさらされており、非常に厳しい負荷を受けている。それらを検査するために自動車メーカーでは自然環境を解析、試験法に落としつつ、より市場関連の高い評価法を検討し続けている。本講演では自動車外装塗装の耐候性及び、過去から現在に至る評価法の進歩を報告する。</p>

■参加申込方法★

参加をご希望の方は、当財団Webサイト (<https://www.swtf.or.jp/>) の参加お申し込みページにてお申し込みください。

登録完了後メールにてご返信いたします（定員になり次第締切りとさせていただきます）。



聴講無料ですが、テキストをご入用の方は、別途テキスト代（5,000円）をお支払いください。

www.swtf.or.jp

公益財団法人スガウエザリング技術振興財団

〒160-0022 東京都新宿区新宿 5-4-14

Tel : 03-3354-5248 Fax : 03-3353-4753

E-mail : tokyo@swtf.or.jp

★参加受付業務は（株）JTBへ委託しております。（公財）スガウエザリング技術振興財団のプライバシーポリシー同様、参加申込に際して、お預かりした個人情報を本講演会以外の目的に使用することはございません。